

平塚の石仏めぐり

20. 広川・片岡・千須谷・飯島編



広川 善福寺 地蔵

広川・片岡・千須谷・飯島の石仏

金目地区東部の広川、片岡、千須谷の3地区と隣接する金田地区内飯島の石仏を併せて紹介します。これらの地区は平塚市の中心部より少し西寄りに位置しています。

天保年間に編纂された『新編相模國風土記稿』によると広川村の戸数は33戸、鎮守は八幡宮、寺院は善福寺です。片岡村は戸数45戸、鎮守は雷電社（現片岡神社）、寺院は龍源寺です。千須谷村は戸数15戸、鎮守は熊野社、寺院は龍雲寺で金目地区の3寺はいずれも曹洞宗です。金田地区の飯島村は戸数15戸、鎮守は天王天神合社（現八坂神社）、寺院は天台宗の明珠院です。

当地区の石造物の基数は広川43基（市内4番目に古い地蔵があります）、片岡39基（石祠8基と多い）、千須谷13基、飯島28基（平成年間建物が10基）の合計123基です。種別では石祠15基、地蔵12基、庚申塔・灯籠各8基、道祖神7基、馬頭観音6基と続きます。

各地区の石仏の特長は、広川には神社境内に2基の石段供養塔があります。片岡には石祠が多くみられますが、明治以降に村人と寺院の間で争いがあり村人の2/3が神道に転じ、葬式や法事を神式で行なったこととの関係も考えられます。千須谷の龍雲寺の本尊は市内唯一の馬頭観世音です。飯島の明珠院の石仏は江戸時代中心に紹介していますが、平成年間に本堂も再建され、新しい石仏も多く建立されています。

石仏知識 15. 地神塔

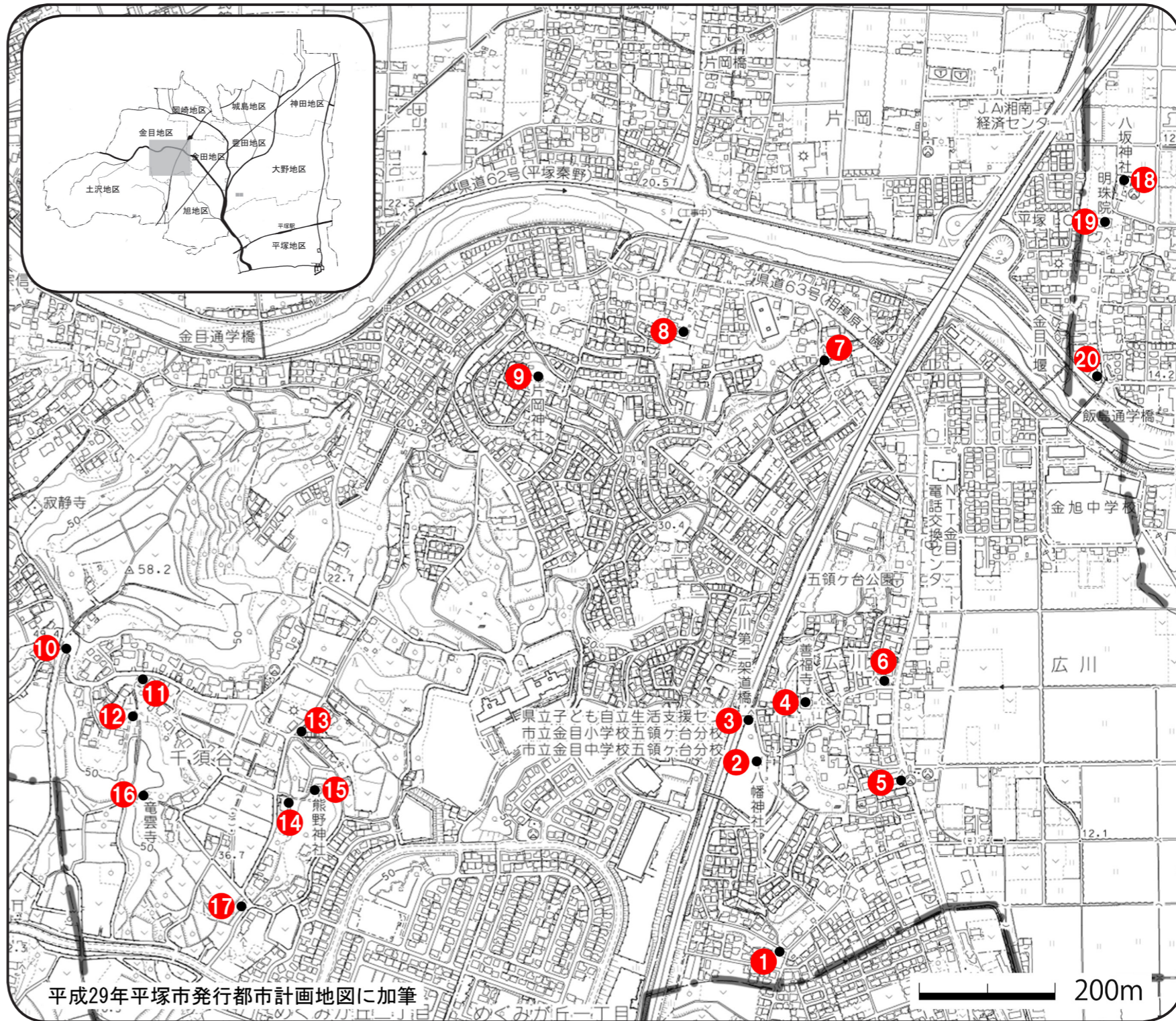
インド神話では土地の繁盛の徳を具えた神を地母神と称し、諸神の母としています。中国ではこの神を后土神と呼んでいました。日本では江戸時代に民間の宗教僧らが農業守護神として、堅牢地神、地神社、天社神など様々な命名をしました。平塚市内には地神社(5基)、堅牢地神、地神塔(各4基)、天社神(2基共に金目)、后土神、五柱神名塔(各1基)の17基があります。

建立年代は寛政4年(1792)が最古で江戸時代12基、明治4基、大正1基となっています。天社神は千須谷と北金目に各1基のみですが、隣接する秦野市から松田町にかけて数多くあります。

春分・秋分に最も近い戌の日を社日といい、土を掘ると地神の頭を傷つけるといわれ、農作業は休みました。市域では、この日は地神講の当番の家に集まり、地神の掛け軸に供え物をして、講員で飲食をしました。

地神は稲の穂を持ち、百姓の神ともいわれ春の社日に来て、秋に帰るまで田畑に出て作物を育てている神です。そのために農村地帯で信仰されていたようです。

市内では1基と紹介した真土神社の境内に祀られている五柱神名塔には、「天照大神」、「倉稲魂命」、「埴安媛命」、「大日貴神」、「少彦名命」と神々の銘が彫られ、いずれもわが国古来の神で、穀物神、土地の神々です。この神々は日本の多くの地域で祀られています。



平成29年平塚市発行都市計画地図に加筆

広川・片岡・千須谷・飯島の石仏所在地と主な石仏

番号	名称	住所	主な石仏
1	広川南久保路傍	広川 352	道祖神
2	八幡神社	広川 618	道祖神、石段供養塔、手水石、石祠他
3	放送塔下路傍	広川 684 西	馬頭観音
4	善福寺	広川 691	結界石、六地蔵、庚申塔、馬頭観音、地蔵、大日如来、観音・巡拝塔他多数
5	広川北久保路傍	広川 708	地蔵
6	広川北久保路傍	広川 727	馬頭観音、観音、万霊塔
7	片岡浅井窪路傍	片岡 795	道祖神
8	龍源寺	片岡 810	六地蔵、庚申塔、結界石、念仏供養塔・道標、観音他
9	片岡神社	片岡 1241	道祖神、石祠
10	千須谷本村路傍	千須谷 12-4 東	巡拝塔・道標

番号	名称	住所	主な石仏
11	千須谷本村路傍	千須谷 145	道祖神、地神塔
12	千須谷本村路傍	千須谷 255	庚申塔
13	千須谷本村路傍	千須谷 177	水神
14	千須谷本村路傍	千須谷 282-2	庚申塔
15	熊野神社	千須谷 203	灯籠
16	龍雲寺	千須谷 228	馬頭観音、地蔵、弁財天
17	千須谷オッコシ路傍	千須谷 294	道祖神
18	八坂神社	飯島 488	鳥居、手水石、石祠他
19	明珠院	飯島 505	宝篋印塔、山王・廻国塔・一字一石塔、庚申塔、地蔵他
20	飯島路傍	飯島 516	道祖神

※当ガイドマップに記載されている石仏の基数は令和3年集計時点のものです。

石仏めぐりを行う場合の心掛け

石仏は、古来より多くの人々がさまざまな願いをこめて手を合わせ祈ってきたものです。今でも信仰の対象とされているものも数多くありますので、見学に当たっては、敬いの心を持って接しましょう。

また、お寺や神社など石仏の管理者がいらっしゃる場合は、石仏を見学する旨一声かけてから見学しましょう。

平塚の石仏めぐり

(20. 広川・片岡・千須谷・飯島編) 発行日: 令和6年4月
 編集: 石仏を調べる会
 発行: 平塚市博物館
 住所: 神奈川県平塚市浅間町12-41
 電話: 0463-33-5111

八幡神社の石仏 (地図番号②)

八幡神社の創立は不詳ですが、平安末期から広川村の鎮守として祀られ、五領ヶ台に館を構えていたとされる鎌倉権五郎景政(平安時代後期の武将)も崇敬したと伝えられています。



左から 荒神社(大正9年)、牛頭天王社(明治6年)、鎌倉権五郎社(天保9年)、八雲社(大正9年)

社殿南側に四つの石祠があり、左から荒神社(1920)、牛頭天王社(1888)、鎌倉権五郎社(1838)、地元では子供の神様と言われている八雲社(1920)が祀られています。

善福寺の石仏 (地図番号④)

善福寺は法雨山と号す曹洞宗の寺院です。鎌倉権五郎景政の開基と伝えられ、天正5年(1577)大智寺(豊田宮下)二世華翁宗嫩和尚が開山しました。かつては八幡神社の東側にあり、火災により現地に移ったと言われています。

地蔵 山門手前左側に、万治3年(1660)造立の地蔵立像が祀られています。



地蔵(万治3年)

造立年代が判る地蔵では市内で4番目に古い貴重な像です。伏し目がちで慈味溢れる丸いお顔と、古様を示す長い錫杖が特徴です。上吉沢の山の神青年会館脇にも類似の像があり、同じ石工のものと考えられています。

庚申塔 山門を入った左側塀沿いに寛文4年(1664)広川村7名により造立された板碑型三猿庚申塔が祀られています。三猿は正面を向き、きちんと座っているように見えます。



庚申塔(寛文4年)

銘文は剥離が進んでいて判読が困難ですが、法華経の文言が刻まれています。これによれば当時の人々が庚申を信仰し、庚申塔を造立することは、仏の道に通じると考えていたことが解ります。

聖観音 山門を入り左手先に聖観音が日如来と並んで祀られています。



聖観音(寛政7年)

左側の聖観音は寛政7年(1795)の造立で、高い髻と細いお顔、左手に未敷蓮華を持ち天衣を裾の方に垂らしています。やや伏し目がちで慈愛に満ちたお顔には魅了されます。

台座には広川村、高根村の6名が西国、秩父、坂東巡拝供養のために奉納したと刻まれています。『広川の歴史』(平成20年)によると、115日と62両のお金を費やした大変な巡礼の旅であったようです。

龍源寺の石仏 (地図番号⑧)

吾妻橋の近くにあり号は明珠山、曹洞宗のお寺でご本尊は釈迦如来です。現本堂は昭和4年(1929)に再建されたものです。細長い参道を歩くと山門の手前に4基の石仏が並んで建っています。

結界石 右側手前にあり高さ1m余りの兜巾型で、正面に「不許葷酒入山門」と彫られ、右側面に「宝暦八戊寅四月吉日」(1758)、左側面には「明珠山龍源寺 現住大梁叟代」とあります。



結界石(宝暦8年)

結界石とは寺域と外界を示し修行の妨げになる葷酒(においの強いニラや酒など)を持ち込まないように寺の門前に建てられた石塔で、禅宗の寺院に多くみられます。

庚申塔 同じく山門前に寛文6年(1666)に建てられた三猿と二鶏が彫られた庚申塔があります。三猿は正面不聞、左右側面に不言不見、二鶏は裏面に枝に止まっているように彫られ、二鶏のある庚申塔は平塚では珍しいものです。



庚申塔(寛文6年)

並んで近年に建て替えられた地蔵立像と六角幢の六地藏があります。

片岡神社の石仏 (地図番号⑨)

古くは雷電社といい避雷除鎮護の神として信仰が篤かったといわれています。明治6年(1873)に村内の稲荷社や日枝神社を合祀し片岡神社と改称されました。祭神は別雷命、豊受比売命、大山昨命の3神です。

道祖神 本殿の左手奥に9基の石祠が移され祀られています。



石祠群の中の道祖神(左から3番目)(安政2年)

その中に「道祖神」の文字と「安政二乙卯年正月 再建」(1855)の刻銘のある石祠があります。

片岡で祀る道祖神はこの1基だけです。他に葵の紋がついた新旧2基の東照宮などがあります。

報徳神社遙拝所 明治元年(1868)片岡村では二宮尊徳の教えを実践する報徳社が結成され、農業における様々な助け合いを目的とする活動をしていました。



遥拝所碑(明治25年)に建てられました。

この塔は片岡村が農業改革に熱心に取り組んできた証で、小田原の尊徳神社を遥拝するために明治25年(1892)

チムセ坂の巡拝塔 (地図番号⑩)

塔正面上段に「湯殿山 羽黒山 月山」の出羽三山を配し、下段に「百番供養塔」と曾我姓の3名、塔の左右面に道標が彫られています。



巡拝塔(文化3年)

建立は文化3年(1806)、この年は大早魃で村人は代表者3名を出羽三山参りに送り出しました。授かった手拭を神水に浸しつつ持ち帰ると、雨が降り始めたことに感謝して供養塔を建立して以降、早魃時には塔の前で雨乞いの念仏を唱えたとのこと。

天社神と彫られた地神塔 (地図番号⑪)

「天社神」と彫られた明治19年(1886)に造立された地神塔です。

天社神と彫られた地神塔は、隣の秦野市では地神塔の6割強の59基ありますが、市内では2基のみで、もう一つは北金目神社境内に祀られた文化4年(1807)建立のもので、この塔の裏面には「祭主 天社神道 []」と地主柳川2名の刻銘があります。神道の名称は不明ですが秦野市周辺を指導した修験者と思われる。



地神塔(明治19年)

梵字「𑖀」を頭に刻む庚申塔 (地図番号⑭)

市内に庚申塔は171基あります。主尊に青面金剛・三猿の像容のほか、文字三字で「庚申塔」と彫ったものが多いですが、頭に青面金剛の種子「𑖀」や、ここで紹介する密教系の胎蔵界大日如来の種子「𑖀」を頭に刻む塔は、上吉沢の延命寺のものと合わせ市内に2基のみです。



庚申塔(寛政12年)

千須谷の熊野神社脇の庚申塔は寛政12年(1800)の庚申年に建立されました。

龍雲寺の馬頭観音 (地図番号⑯)

龍雲寺は相模新西国三十三観音霊場の第27番札所で、本尊は木造の三面馬頭観音坐像です。

延享2年(1745)の丑年より巡礼が始まり、丑年毎の春彼岸より30日間、各霊場の本尊が開帳されます。

本堂前の石仏の馬頭観音の建立年は文化2年(1805)の丑年です。

本尊御開帳の期間が限られていますので「お前立」の心算で石仏が建立されたものと思われる。



馬頭観音(文化2年)

明珠院の石仏 (地図番号⑰)

寛正5年(1464)に創建された天台宗の寺院で、当初は不動明王がご本尊でしたが現在は釈迦如来です。花祭りや涅槃会には本堂で念仏やお経を讀誦会で唱えます。8月23日の地藏盆には山門入口の六地藏の前でお経を唱え供養します。

宝篋印塔 山門を入れて右側の木を囲むように、7基の石造物が祀られています。



宝篋印塔(宝暦13年)

一番大きな高さ240cmの塔は宝暦13年(1763)造立の宝篋印塔で、塔身には金剛界の四仏である「阿閼 宝生 無量寿 不空成就如来」が梵字で、基礎正面に「宝篋印塔」、裏面に「願以此功德 普及於一切 我等與衆生 皆共成佛道」と、仏や菩薩などの功德を褒め称える偈頌が刻んであります。

元来宝篋印塔は陀羅尼經を納める塔ですが、多くは供養塔として建てられました。

一字一石塔 宝篋印塔左側に高さ160cmの塔があります。笠は石を二段に積み重ね。その上には15cmほどの人間らしき像が、両手で何かを抱えて立っています。守護神でしょうか?



一字一石塔(嘉永元年)

塔正面に梵字で「𑖀」、「山王社大乗妙典壹字一石塔 奉納三 陀羅尼」の銘文が刻んであります。

寺院北側の小字が山王前ということから山王社があり現在の場所に塔を移したのと思われる。

一字一石塔は祈願や追善供養のために大乗妙典(法華経)を一字ずつ書き土中に納めその上に建てた塔です。左面に宝篋印塔と同じ偈頌が刻んであります。嘉永元年(1848)造立です。

山王大権現塔と庚申塔 本堂裏に2基の塔が並んで祀られています。



左 山王大権現塔(享保6年) 右 庚申塔(寛文12年)

左側の塔は、高さ61cmの山王大権現塔で、上部には日輪と月輪を配し、中央

に「奉造立山王大権現」の銘文が刻んであります。下部には山王信仰使わしの「不言 不聞 不見」の三猿が彫られ、腕と脚は菱型をしており可愛いお猿さんです。享保6年(1721)造立です。

右側の塔は、高さ91cmの庚申塔で、塔の表面が一部欠落しており、銘文は正面に「奉立庚申供養」、左面に「寛文一二〇」、裏面に「飯嶋村施主惣旦那」、右面に「延命〇〇」とあり、寛文12年(1672)の造立で、飯島の石造物で一番古い塔です。

2基とも寺院の北方の山にありましたが、小田原厚木道路の建設により現在の場所に移されました。